

表現することを楽しむ子を育てる援助の工夫

～友達とかいたりつくったりする活動を通して～

那覇市立石嶺幼稚園教諭 友寄 啓子

研究テーマ設定理由

今日の子どもを取りまく環境は、都市化が進み、子ども達が戸外で豊かな自然に触れて遊ぶ機会が少ない。また、少子化や核家族化、そしてテレビゲーム等の既製のおもちゃの氾濫の中で、知恵を受け継いだり、工夫して遊びをつくり出したり、子ども同士で遊ぶ時間や機会も減少しているのが現状である。

幼稚園教育要領解説の「表現」の領域の中で、「幼稚園においては、日常生活の中で出会う事物や事象、文化から感じとるものやその時の気持ちを友達や教師と共有し、表現し合うことを通して、豊かな感性を育てるようにすることが大切である」と述べられている。

幼稚園においては園生活の身近な環境に十分にかかわり、様々な美しいものや心動かされることに出会い、そこで感じたことを自分なりに表現し、その感動を友達や教師と共有し合う喜びを味わうことが大切であり、豊かな感性や創造性の基礎を培うことが大切である。

本園の幼児の中には、積極的に絵を描いたり、空き箱等身近にある素材を使って製作遊びを楽しんだりする子もいる。しかし、中には関心を示さない子や、やり方が分からず不安がる子、表現活動を楽しめず途中でやめようとする子もいる。これは、教師が作品の出来栄に気をとられたり素材や内容に工夫がなく画一的な活動になったり、何よりも一人一人が自分なりの表現を楽しむことへの配慮や支援の不足があったのではないかと考える。

これらの反省をふまえ、幼児が自分の思いを自分なりに表現したいと意欲的に環境にかかわろうとする工夫や、やり方が分からない子に対して丁寧な援助を行うと共に、教材や方法を工夫しながら、教師と友達と感動を共有できるような多様な活動を体験させることが重要だと考える。そこで、幼児が自分なりに表現し、友達と一緒に取り組む楽しさを感じると同時に表現する喜びを味わえるような援助を研究したいと考え、本テーマを設定した。

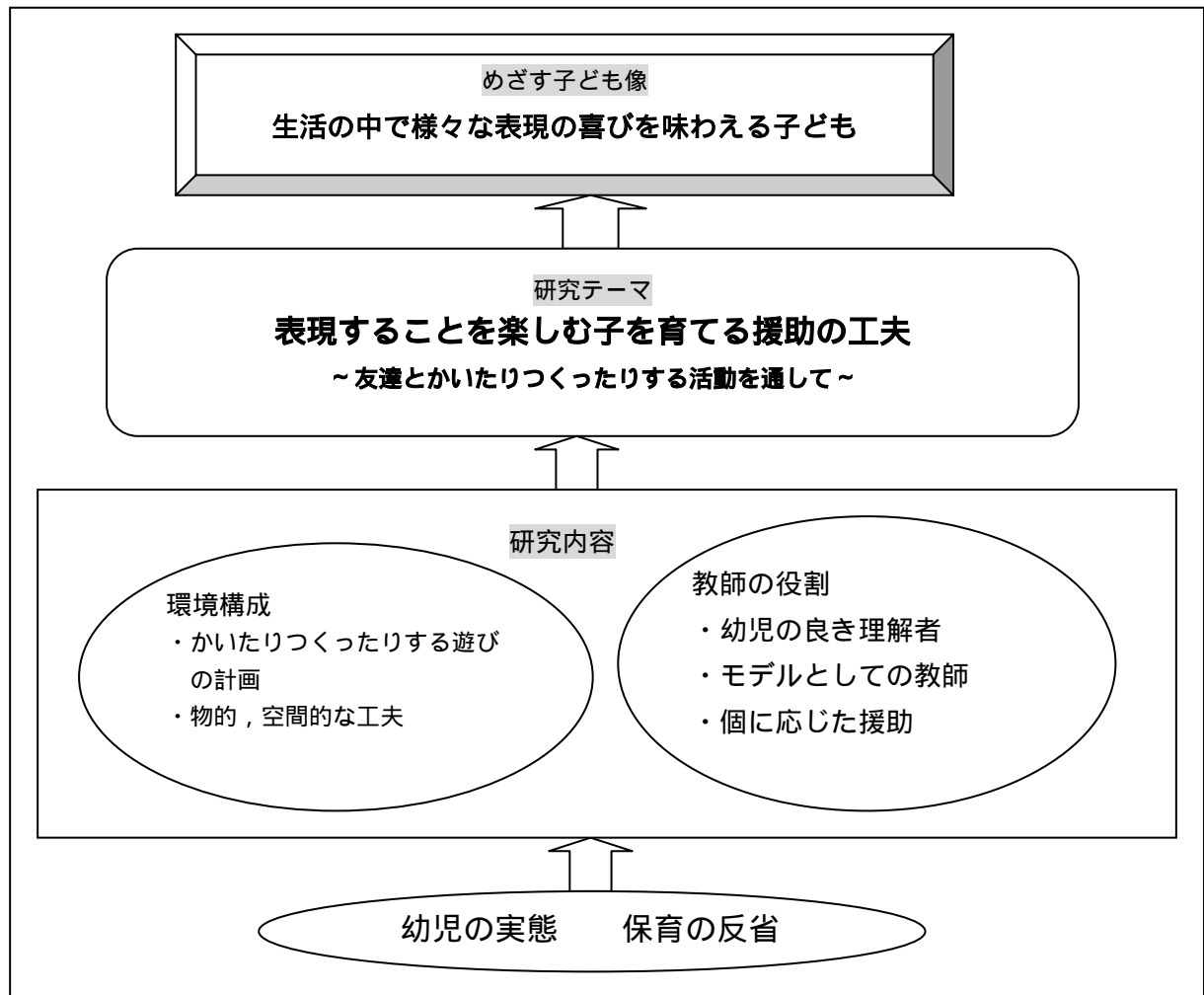
研究目標

友達と一緒にいたり、つくったりする活動を通して、表現することを楽しむ子を育てるための援助の工夫について研究する。

研究方針

- 1 感性と表現に関する領域「表現」について理論研究する。
- 2 かいたりつくったりする表現意欲を高めるための環境構成の工夫について研究する。
- 3 かいたりつくったりする表現の喜びを味わわせるための教師の役割について研究する。

研究構想図



研究内容

1 幼児期における感性と表現

家庭から幼稚園へと生活の場が大きく広がる幼児期は、外界の広がりによって、様々な事物や事象に出会い、好奇心や探求心が呼び起こされ、多様な刺激を豊かに受ける時期である。幼児は、身近な周囲の環境に五感のアンテナをはりめぐらし、全身を使って美しさや優しさなど様々なものを感じ取っている。自分のもつ強い好奇心で外界の多様な刺激を精力的に受けとめ、感覚が磨かれ洗練されていく。そうして、美に対する豊かな感性が育っていくのである。しかし、はじめから様々なものに美しさを感じたり、心動いたりする豊かな感性をもち合わせているわけではない。幼児は美以前のいろいろなものに出会い、いろいろななかかわりをもちながら、そこに感動や驚きの体験をたくさんもつことから始まる。このような原体験の中で子どもの柔軟な心や頭が、美しさ、優しさ、すばらしさなどに気付き、感性が豊かになる。

幼児が出会った様々な体験や、その時々感じた気持ちや感動を自ら楽しみ、他者に伝えようと表現も豊かに広がっていく。その際、心の動きを、体全体を通して表現したり、素材となるものを仲立ちにして表現したりする。幼児は、これらを通して、感じること、考えること、イメージを広げることなどの経験を重ね、感性と表現する力をさらに豊かにしていく。

のである。

幼児期においては「自分なりに表現すること」が重視されるが、それは、出来映えの良し悪しではなく、表現しようとする意欲を高める原体験を豊かに味わうことや表現することそのものに喜びを感じさせることが大切だからである。

2 原体験を豊かにする環境

豊かな感性や自己を表現する意欲は、幼児期に自然や人々など身近な環境とかかわる中で、自分の感情や体験を自分なりに表現する充実感を味わうことによって育まれる。そのため、幼稚園では、身近な環境を通して、幼児が心を動かされるような機会を豊富につくり出すことが大切である。例えば、様々な音、色、形、手触り、動きなどを感じることができる環境や、また、幼児一人一人の感動を引き出せる自然や動物、絵本、物語などのような身近な文化財、さらに心休まるような絵や音楽がある生活環境など、幅広く考えられる。

このように、豊かな環境とは、幼児たちに心をときめかすことの多い環境、様々な刺激を与え、様々なことを考えさせたり、様々な活動への誘いかけをしてくれる環境、様々なやりとりをしてくれる環境である。そのような環境に対して、幼児なりに感じたことや考えたことを表現しようとする姿を温かく見守り、それらとのかかわりを十分に楽しませていくことが重要である。

そのため、幼児が園生活での教師や他児との関わり、遊び、自然との触れ合い等、様々な体験の中で自己表現を繰り返しながら、受容され、自分の存在を実感し、充実感を得て、自分らしい様々な表現を楽しむことのできる環境を工夫する必要がある。そこで、幼児が主体的に活動する中で、一人一人が感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむことができるようにしたり、一人では興味・関心をもたなかった対象に対しても、他の幼児とのかかわりや教師の援助によって興味・関心をもつようになり世界を一層広げていく。

3 表現を楽しむプロセスと教師の役割

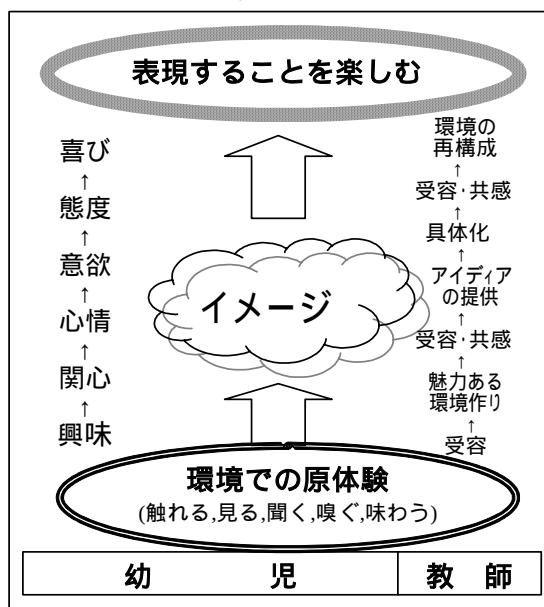
幼児が表現を楽しむプロセスを図1のように考える。五感を働かせ、自分を取り巻く環境に興味・関心をもち主体的にかかわる中で表現意欲が高まり、表現することそのものを楽しむ。

幼児が表現することを楽しむために教師の役割として次のようなことが考えられる。

○ 人的環境としての教師の役割

幼児が自然をはじめとする身近な生活の中で「不思議」「触ってみたい」「やってみたい」と感動を引き出せるような様々な原体験ができる豊かな環境を構成することが重要である。その図1表現を楽しむプロセス

中で生まれた感動からイメージしたことが表現できるように素材や用具を準備し環境の再構成を行う。そして、幼児の表現意欲を高め表現する喜びを味わえるようにする。その際、幼児の発達や個性を捉え、幼児の表現の仕方や楽しみ方に対応できるよう、材質、形態、使い



やすさなどを考慮し、指導の見通しをもって準備する。

○ 幼児の良き理解者

教師は幼児の感じている心の動きを受け止め、イメージを膨らませたり、友達に伝えたり、アイデアを提供したりして、幼児の思いや考えを具体的に表現できるように援助しなければならない。そして、幼児が困っている時は、幼児と共鳴する者として協同作業者になり一緒に遊びに参加する。また、直接働きかけるだけでなく、幼児の活動を見守り理解している教師の存在は、幼児にとって認められ受け入れられているという信頼感や安心感もたらし、幼児により自由な表現を創り出させる。

○ モデルとしての教師

教師が率先して表現を楽しみ取り組む姿は、幼児の心を引き付ける。「せんせいのようになりたい」という幼児の思いは、物事との新たな出会いを生み出したり、工夫して遊びに取り組んだりすることを促す。また、教師自身の考え方や感じ方、自己表現の仕方は、幼児に大きな影響を与えるので、教師も豊かな感性をもち、幼児の表現が分かる教師になるように努めることが大切である。

4 表現を楽しむ子を育てる援助の工夫

(1) 個に応じた援助の工夫

幼児の表現を受容する援助

幼児の一人一人の家庭環境や生活経験が異なるように、一人一人の環境への受け止め方や見方、かかわり方も異なる。それぞれの幼児らしい仕方で環境に興味をもち、かかわり、感じたことを表現しようとする幼児の発達課題を受けとめ援助する必要がある。そのためには、幼児一人一人の内面の発達（その幼児らしい見方、考え方、かかわり方）を理解し、その子なりの表現を認めながら状況に応じた柔軟な対応をすることが大切であると考え

主体的に表現するための援助

幼児がより自由に自分の思いにかなった表現をするためには、必要な技術を体験的に身につけることも大切である。そのための援助として、1つ目に、幼児が感じたことや考えたことを気おくれしたり、ためらったりしないで表せるように、表現したいことをできるだけ具体的にイメージ化できるようにする援助である。

2つ目に、教師が意図した表現活動である素材や方法が、幼児に興味や関心をもたせ、楽しい表現活動にする援助である。そのような計画された表現活動を経験しながら、様々な表現の素材や方法を工夫して活用できるようにすることが3つ目の援助である。そして、自分の好きな表現方法を見つけ、自分なりの表現を楽しみながらできるようになると考える。

(2) 表現することを楽しむためのかいたりつくったりする遊びの計画

幼児がかいたりつくったりすることを楽しみ、表現する意欲をより高めていくためには、表現を豊かにする様々な体験ができるような環境を構成し、遊具や用具などを準備し、組織的、計画的に行うことが大切だと考え、表1の年間計画を立案した。

表1 表現することを楽しむためのかいたりつくったりする遊びの年間計画

月	ねらい	環境		かいたりつくったりする活動		援助
		自然	素材・用具	描く	つくる	
4 5月	- 先生と一緒に安心して過ごし、好きな遊びを楽しむ。 - かいたりつくったりすることを楽しむ	- 園庭を散歩したりしつめ草で遊ぶ。 - つまぐろひょうもんや飼育動物に触れて遊ぶ。 - 砂の感触を味わいながら遊ぶ。	- 描く素材、クレヨンや水性ペン、折り紙、画用紙など豊富に準備する。 - 粘土遊びの用具を揃え整理しておく。 - 花を生ける花瓶や花束にする紙を準備する。	- ぬり絵 - 好きな絵を描く - クレヨンのさんぼ（線描き）	- 簡単な折り紙を折る - 粘土あそび - 紙遊び - 破る、切る、ちぎる - おそば屋さんごっこ	- 一人一人の遊びを認め、ほめながら自信を持たせ、教師や園に親しみがもてるようにする。 - 春の花の色の美しさやのどかな雰囲気を感じ、幼児と共に感じる。
6 7月	- 好きなともだちと一緒に遊ぶ - いろいろな素材や用具に親しむ - 自分の考えたことや感じたことを絵や物に作って表現する。	- 飼育動物の世話をしたり、オオゴマダラを見たり、身近な生き物に親しみながら表現を楽しむ。 - おたまじゃくしやカタツムリ、あじさいなどをつくりたりして梅雨の自然に触れる。 - 朝顔やひまわりなどに水やりをしたり、草花で色水遊びをしたり、園庭で遊ぶ。	- 用具の使い方を知らせ、いろいろな素材を使って遊べるようにする。 - 梅雨期の生き物を飼育し、触れたり、見たりしながら製作遊びを楽しめるようにする。 - 笹竹を準備し好きな時間に七夕飾りの制作ができるよう材料を準備する。	- 線遊び（点、波、等） - えのぐ（ぬりたくり） - 当番カード - あわせ絵 - 和紙染め ○ □ 等の形を描く - たんざく	- 剣づくり - 輪つなぎ - 色水遊び - プレゼント作り（父、母の日） - しゃぼん玉 - ボディペイント - カタツムリづくり - 七夕飾り - 朝顔、せみを折る	- 室内での遊びが楽しくできるように材料、用具を幼児の要求に応じて用意できるようにする - 製作コーナーで友達や教師と一緒に楽しめるよう環境を整えておく。 - 用具や素材を自由に使用したり、片付けができるよう表示を工夫する。 - 一人一人が何に興味をもっているか探りながら、丁寧にかかわり援助していく。
9 10月	- 友だちと一緒に共通の目的をもって遊べる - 試したり、工夫したりして遊びを進める。 - 友だちと相談しながら、遊びに必要なものを作る	- 夏休みの経験を思い出しながら海の表現遊びを楽しむようにする。 - 秋のいろいろなくだものを知り、表現遊びをする。 - とんぼやバッタ、かばまだらなど、身近な生き物に触れ、表現を楽しむ。	- 海の自然物（貝殻、さんご、石）を準備し、触ったり、ままごとのごちそうに使ったりして遊ぶ。 - 敬老の日のプレゼント作りをする - 万国旗を作り、運動会の雰囲気づくりをする。	- 海や魚の絵 - 旗の絵 - 運動会の絵 - プログラム - くだもの絵 - かばまだらの絵	- 廃品を使って構成遊びをする。 - 水族館 - プレゼントづくり（敬老の日） - 貝殻飾り - ペンダント等 - 旗づくり - バッタを折る	- いろいろな材質の素材に触れたり、用具の基本的な使い方等を楽しませながら経験できるようにする。 - 自分なりの思いや考えで、工夫したり、試したりできる時間や場を保障する。 - 友達と考えを出しながら遊ぶ中で、自己主張し合う姿を大切に受けとめ、見守りながら援助していく。
11 12月	- 友だちとの遊びの中で個々の課題への取り組みができる - 友だちと一緒に共同制作に取り組むことができる。 - 園の課題に向けて、グループ、クラス全体で取り組むことができる。	- いもほりをしたり、畑にいるこおろぎや虫を見ついたり郊外の自然を楽しむ。 - まつぼっくりや木の実を拾い遊んだりして身近な自然に親しむ。 - 二十日大根やインゲン豆など野菜の収穫を喜び表現する。	- いものかずらを飾ったり、いもスタンプを楽しませる。 - 発表会に使う飾りの材料（おりがみ、画用紙など）を準備し好きな時間に楽しみながら作れるようにする。 - 身近にある木の実を飾りに使う。	- いもほりの絵 - 発表会に必要なもの - クリスマスの壁面	- ペープサート - 用具や飾り - お面 - みつ編み - 靴下づくり - ポインセチヤ作り - クリスマスツリー	- 季節々のその時のならではの材料を提供しイメージをふくらませる。 - 一人一人の表現のよさを認め、そのよさを伝えて自信をもたせる。 - 材料を豊富に準備して、幼児が自由に選択して、一人一人のアイディアを出しながら友だちと一緒に作り上げていく喜びが味わえるようにする。
1 3月	課題を自分なりに取り組み、いろいろな表現に挑戦したり、自分を発揮できる。	- 園庭の桜や梅の花を見て春を感じる。 - ヒヤシンスの水栽培やスイートピー、チューリップ、等を育てながらの表現を楽しむ。 - つまぐろひょうもんや食草のパンジーを育てながら表現を楽しむ。	- 園庭の桜、梅、チューリップの花の絵画製作ができるよう折り紙、画用紙などを準備する。 1年間を思い出しながら作りたいものができるように素材や用具を準備する。	- 二十日大根の絵 - 飼育動物や植物の絵 - おにの絵 - 自分の絵 - 幼稚園の思い出	- めんこ - シュリケン（おりがみ） - マフラーを編む - 鬼の面 - ひな人形	- 課題に対する一人一人の取り組みを理解し、励ましたり、必要な援助をしながら、さらに次の意欲や自信につなげるようにする。 - 一年間の生活を思い出しながら、一人一人の成長を認め、終了の喜びや自覚をもたせるようにする。

(3) 材料や用具の工夫

かいたりつくったりする表現活動における幼児の発想は、多種多様である。そのような幼児の様々な発想を実現させるためには、表2のように、多様な材料や用具を揃えたり、援助が必要になる。

表2 材料や用具の工夫

内容	項目	援助
絵画	クレヨン チョーク 水生・油性マーカー 鉛筆・色鉛筆 コンテ 墨 えのぐ 紙類…画用紙、和紙、ボール紙、模造紙、等 鑑賞	・いろいろな形を黒板や紙の上に自由に描き表させ、描きちらしているうちに、自分の描いたものが形になっていく経験をたくさんさせるようにする。 ・描きたい時にいつでも描けるように材料を豊富に用意し、幼児が出し入れしやすいように置き場所を工夫する。 ・えのぐの色にはどんな色があるのか興味をもたせたり、どうすればこんな色が出るかなど色遊びを通して、彩色の喜びを味わわせるようにする。 ・色々な紙類があり、厚さ、色合い、材質などによって様々な描画材料の効果が得られるのでいろいろな画面（キャンパス）を経験させるようにする。 ・大きな紙、小さな紙、細長い紙に、一人で描いたり、友だちと一緒に描いたり様々な描画表現を楽しませるようにする。 ・自分の描いた絵だけでなく他の幼児の絵も見せて、よく描けたところを話し合う。 ・幼児の描いた絵は、作品によっては台紙に貼って掲示し、お互いのよさを共有できるようにする。
	油粘土 紙粘土	・幼児の望むままに自由に、変形したり、形の変化や感触を楽しむことができる表現活動である。先生や友だちと一緒にのべしたり、こねたり、好きなものを作って楽しめるようにする。 ・作る遊びの他に、作品は乾燥させて色を塗り、ままごとのごちそう、動物園などのおもちゃとして幼児の遊びを充実させるようにする。
製作	空き箱、ダンボール、空き容器・袋、プラスチック、等 紙類…画用紙、折り紙、ボール紙、等 モール・リボン、ひも、等	・身近にある廃材は、組み合わせるのに適した材料である。種類や数が多いと発想も広がる。そこで、使用したものを再利用できるよう家庭や地域の協力を得て、多様に経験させるようにする。 ・作って遊んだり、劇遊びに使う等、目的をもった製作活動もある。遊んだり、劇遊びをする中で、更に製作活動が展開できるよう環境の再構成をする。 ・空き箱やダンボール等を使って遊ぶうちに、個人で作る活動から仲間どうして話しあったり、協力してひとつの遊びをつくりあげるようになる。そして、ごっこ遊びやいろいろな表現遊びに発展していくので、共同制作に発展できるような環境づくりをする。
	のり・ボンド ガムテープ・セロテープ、各種テープ類 ホッチキス 穴あけパンチ はさみ カッター類、等	・、飾りにする等、の用途や材質によっては使い分けるように知らせる。 ・ガムテープは幼児にとって扱いにくいので、子どもの手でも切れるように、また、使い過ぎないように切れ目を入れておく。 ・ダンボールカッターは事前に出すと「切る」ことだけに興味をもつので、必要な時に出すようにしたい。安全な使い方を十分に指導する。 ・用具によっては教師が手伝ったり、介助したり、そばで見守りながら使わせるようにする。
	木材 のこぎり 金槌 くぎ…等	・金槌やのこぎり等の道具を操作することに好奇心を示し、木工工作に取り組むので釘うち遊びを楽しませたり、板どうしや木片を打ちつけたりして簡単な木工遊びを楽しませるようにする。 ・安全な使い方に十分配慮する。
自然	・四季おりおりの木の葉、実、花 ・砂・土 ・小石・貝がら ・身近な生き物 ・飼育動物 ・自然観察	・園内や園庭、園周辺の生活環境に目を向け、幼児と共に見たり、感じたりしながら、身近な自然を表現して遊びを楽しめるようにする。 ・園の飼育、栽培の世話をしながら、動植物に親しみを持ち、表現して楽しめるようにする。 ・きれいな石を集めたり、貝殻で飾りをつくったりする遊びを楽しめるようにする。 ・草花遊び等、園内の自然にかかわっていく中で、それらを用いて生活を楽しくできるように環境を工夫する。 ・自然の現象を感じ、季節の生き物に親しみながら、それをかいたり、つくったりして遊べるようにする。

検証保育

1 題材名 「ダンボールであそぼう」

2 題材について

(1) 幼児観

9月に入り、幼児たちは、集団生活のリズムがわかり、園の環境や生活に自分なりの取り組みができるようになってきた。しかし、中には、遊びに対し興味がもてなかったり、友だ

ちと一緒に取り組んでいても自分の考えや思いを出すことができなくて遊びを楽しめない子もいる。そのような幼児たちが園生活を楽しみ、主体的に活動に取り組むには、自分を表現しながら遊ぶ楽しさを味わうことが大切だと捉えた。園行事である運動会や生活発表会を経験した幼児達にとって 12 月は、グループ活動ができる時期である。そのような時期に協同制作を通し、友だちと一緒に作っていく楽しさを味わわせ、表現することを楽しむ子に育てたい。

(2) 保育観

表現することを楽しむ子を育てるためには、園生活のいろいろな場面での幼児の自己表現を教師が受けとめ、そのよさを知らせ、自信をつけながら表現する喜びを味わわせることが大切であると考え。園生活の後半であるこの時期をふまえ、グループの友だちと一緒に作って遊ぶ楽しさを味わわせるようにする。そのことにより、助け合って一人だけではできないものができ上がったり、一緒にやることでよりイメージが広がったり、活動（遊び）そのものがますます楽しくなっていくと考える。そのことを意図してダンボールを使った家づくりを共同制作活動として行う。

(3) 題材観

ダンボールを材料として「家づくり」の表現活動を行う。この表現活動のよさとして、次の三点が考えられる。

- 「家」は一番身近な生活の場である。家づくりの表現活動は生活に密着しており、夢を描きイメージをふくらませ、工夫していろいろな家及び家にある作りたいものをつくることができる。その家づくりに大小様々のダンボールが材料として適していると考え。形や大きさからもイメージを広げることができると共に、幼児一人一人の発達に合わせ自分なりに家づくりを楽しむことができる。
- 個からグループ、又は、集団へと仲間意識が高まろうとしている時期に、共同製作として家をつくることは協同の態度を培える活動である。そして、友だちと一緒に家をつくる過程を通し、友達と相談したり、一緒に使ったり、感動を共有しながら、つくる喜びを味わうことができる活動である。
- ダンボールを使っの「家づくり」は作品として作るだけでなく、自分の家（基地）として大胆に遊べる活動である。世界（空間）を仲間と共有し、互いの家に入出入りしながらごっこ遊びの体験ができる等、遊んで楽しむことができる。

(4) 表現意欲を高め、イメージをふくらませるための援助の工夫

ダンボールを使った構成遊びを幼児が主体的に行えるようにするため、表 3 のような環境の構成を行う。

表 3 ダンボール遊びの環境の構成

	ねらい	内容	援助
ダンボール箱	・ダンボールに触れ、身近にある素材にイメージを広げ、興味をもつ。	・素材に触れ、親しみ、ダンボールに様々なイメージをもつ。 ・身近にあるダンボール箱について知っていることを話し合う。	子どもの気づいたことや考えたことを大事に受けとめ、他児にも伝えながら、多くの子に話す機会をもたせるようにする。

イメージ遊び	・ダンボールのちぎり絵創作話を読み聞かせ、形の変化を楽しむ ・ダンボールをちぎり、イメージ遊びを楽しむ。	・ちぎったダンボールからイメージするものを追描したりして表現する。	最初は教師がイメージ作りを行い、その後幼児のイメージを取り上げ、クラス全体に広げることを楽しんだり、自信をもたせたりする。
絵本	・絵本を通し、イメージする楽しさを味わう。	・絵本「ダンボールくん」から、イメージしたことを作る楽しさを知る。	絵本を見ながら、幼児それぞれにふくらんでくる思いを受けとめ「表現したい」と思う気持ちを育てるようにする。
素材に触れて	・ダンボールに触れて、形や大きさ、材質を感じ、感触を味わう。 ・様々に置いてあるダンボールに触れていろいろな遊び方を見つけ楽しむ。	・様々に置いてあるダンボールに触れて好きなように遊ぶ。	立てる、横、筒状、平面、等に置き、いろいろな状態から、イメージする遊びを十分に楽しませるようにする。
仲間作り	・好きな友だちと相談しながら、ダンボール遊びを進める楽しさを味わう。	・好きな友だちと一緒に家作りの相談をする。	お互いの意見や考えが受け入れられる気の合う仲間になるよう見守ったり、グループに入れない子は、みんなに投げかけ問題を解決する。
素材の置き	・様々な素材や用具を使って、自分たちの考えた家づくりを楽しむ	・様々な素材や用具を見つけて家づくりをする。	大小様々なダンボールを取りやすい程度に山積みにする。ほかの様々な素材は選びやすいように並べて置くようにする。
用具の技術指導	・新しい用具の安全な使い方を教える。	・初めての用具ダンボールカッターを使って、ダンボールを切ったり、穴をあけたりする。	家づくりの過程で必要になった時に出すようにする。一時、活動を止め、安全な使い方を他の子にも知らせる。必要に応じて使うようにさせる。また、使い慣れるまでは個人指導を行いながら進めるようにする。

3 検証までの保育の流れ

月日/時	ねらい ○活動内容	教師の願い □環境構成 援助の工夫
12.6 (月) 9:00	いろいろな形からイメージすることを楽しむ。 ○切ったり、ちぎったりしたダンボールのいろいろな形のイメージあそびをする。 ・サインペンで追描する。 ・みんなに自分の作品を見せ、お話をする。	想像しながら作っていく遊びの面白さを味わって欲しい。 □導入：ダンボールの実物を見せ、「なににつかうもの?」「なにがはいっているかな!」...等とダンボールについて話をさせ興味をもたせる。「先生のダンボールに、こんなものが入っていました」とダンボールの中から「ダンボールくん」の絵本を取り出し読み聞かせる。 ダンボール紙は、できるだけ破るようにさせたいが、できない子は、はさみを使わせたり、保育者が手伝う。 自分でイメージできない子、は保育者が似ているものの例をあげて本人に選ばせるようにする。 出来上がった作品は動物、物、等に分け全紙に貼り遊戯室や廊下に掲示し、ダンボール遊びの雰囲気づくりをする。
12.15 (水) 9:00	ダンボールに触れて、いろいろな遊び方を見つける。 ○ダンボールに触れて好きなように遊ぶ。	ダンボールの材質や感触を味わいながら、素材に対しイメージをふくらませ、自分たちの遊びを創造して欲しい。 □広い遊戯室にいろいろな大きさや形のダンボールを縦、横、筒状、等、様々な状態で置き、わくわくするような出会い方をさせる。 素材との出会いの感動から、活動前の説明を省き「ダンボールで遊ぼう」の簡単な一言で導入し、幼児の「遊びたい」と思う気持ちの高まりを大切にする。 個やグループのそれぞれの考えた遊びは、表現として受け止め楽しませるようにする。 活動としてロール状になって転がることも予想されるので、ぶつからないように安全に気をつける。

4 検証保育指導案

(1) ねらい

- ・友達といっしょに家をつくる楽しさを味わう。
- ・いろいろな材料を使って様々な表現を楽しむ。

(2) 保育の視点

自分なりに表現して楽しんでいるか。

友達と一緒に相談しながら家づくりに取り組んでいるか。

友達とダンボールの家づくりを楽しめるための環境構成ができているか。

(3) 保育指導案

時間	予想される幼児の活動	教師の願い 援助	・環境構成
8:15	○登園する。 ・挨拶をする。 ・所持品の始末をする ・清掃・水やり（園庭）	一人一人と挨拶を交わしながら温かく迎え、身心の状況を把握する。 登園順に朝の清掃や水かけをした子を労い、きれいになった心地よさを感じられるようにする。	・一人一人と話をしながら健康状態を見る。 ・今日の遊びへの期待が持てるように言葉かけをする。
8:30	○好きな遊びをする。 ・たけうま ・フープ、等（園庭） ○片付けをする。 ・手洗い、うがい	やりたいことを見つけ、できるようになった充実感、達成感を味わい、自信につながって欲しい。 いろいろな運動遊びに挑戦する姿を認め、励したり、できるようになった事を一緒に喜ぶ。	・できるようになった子を認めながら、チャレンジカードの準備をする。
9:15	・遊戯室へ移動	保育者も遊びに参加しながら、準備から片づけまで一緒に行く。	
9:30	○話を聞く。 ・昨日の遊びを思い出し今日の家づくりの話をする。 ・片づけを知らせる合図の説明を聞く。 ・友達と相談しながら家をつくる。	自分の考えを表現しながら友達と一緒に家づくりを楽しんで欲しい。 幼児の思いや考えを引き出すようにする。 それぞれの取り組んでいる中、ゆったりとした気持ちで片づけができるようにさせたいので音楽（BGM）を流すことを約束する。 家に必要なものを気づかせていく。 子どもの思いや発想を大事にするが、場合によっては、「○○があるといいね！」等と知らせる。（ドア、窓、カーテン、飾り、等） 安全な用具の使い方を再確認する。 いろいろな方法があることを例に上げ知らせる。 つなぐ、つける、切る、穴をあける、描く、貼る、等。 上手に用具を使っているグループや、切る方法を工夫しているグループのやり方を知らせる。 仲間といてもつながりのない子には友だちのやっている事に目を向けさせたり、保育者が本人の考えを友達に伝え、できるだけ子ども同士で進められるようにする。	・家作りを一緒にしたい友達でグループ（4～5人）を作る。 ・様々な家づくりができるよう巧技台も準備して置く。（支える、吊す、固定する、等土台にする等） ・材料…ダンボールは一カ所にひとまとめにして置く。（材料の山のイメージ）その他、いろいろな空き箱、空き容器、芯ロール・包装紙、布、等は見やすいように並べて置く。 ・用具…グループの近くに置く。 ・ビニールテープ、セロテープ ・ダンボールカッター、油性ペン、ガムテープ、……等 ・片付けを知らせるBGM（音楽）を流し、遊びの楽しさの余韻を味わいながら片付けができるようにする。 ・グループ別に座る。 ・自分たちの家で過ごす。 ・作った家で静かに休ませ、会話を楽しみながら安定した気持ちになってから教室に帰す。
10:10	○片づけをする。 ○集まる。 ・話し合いをする ○「おうちごっこゲーム」をする。 ○教室へ帰り、おやつ準備をする。	特に用具の片づけがされているか確認する。 それぞれのアイディアや考えを認め、どこが、どんな風にいいのか具体的にほめてあげるようにする。 教師がお客さんになってそれぞれのお家を訪ねて行き、会話を楽しみながら、各グループの頑張ったところ、工夫したところ、良いところをみんなに伝える。 作った家の中で話しをしたり、遊んだりして、友達と過ごす楽しさを味わって欲しい。 家の中にいる状態から保育者の歌にあわせてグループ毎に教室に帰るようにする。	

結果と考察

環境構成を工夫し、教師が幼児の良き理解者やモデルになれば、主体的にかかわり表現することを楽しむであろう。

手だて 1 環境構成の工夫

【結果 1 幼児たちのダンボール遊び】

ダンボールを使った遊びに興味・関心をもつよう環境構成を次のように工夫した。

まず初めに、小さなダンボールや箱などを遊戯室に出して置いた。そして、小さめのダンボールをちぎって遊び、様々なダンボールの断片からいろいろな形を見つけて話をしたり、絵を描いたり、形を作ったりしてイメージ遊びをした。写真 1 はその時の様子である。

次に、様々な形や大きさのダンボールを数多く広い遊戯室いっぱいに広げておき、幼児達に出会わせた。見つけると早速、ダンボールの中に入って、友達とおしゃべりをしたり、かくれんぼをしたり、キャタピラーのように転がったりして遊び、その後、「ダンボールくん」の読み聞かせを行った。Yさんが「箱でお家をつくろう」と大きな声で叫ぶと、Mさんは「家をいっぱいつくって、町をつくろう」と話し、イメージが膨らみ、夢が広がったようである。写真 2 はその時の様子である。

ダンボールを使った家づくりにおいては、それぞれの家のイメージを実現できるように、様々な素材や用具や遊具を準備する。また、友達と相談しながら、力を合わせてつくれるように、気の合う友だちでグループをつくった。写真 3 のように、どの子ども友達と一緒に相談しながら試したり、工夫したりしながら、それぞれの家づくりに取り組んでいた。うさぎグループからベッドを作るために「ふとんみたいなものがほしい」と相談されたので、教師は布カーペットとマットを出した。すると 5 人で寝心地のいいベッドを作っていた。お父さん、お母さん役も決まり「おかあさんはベッドでねるの。おとうさんはそのそばだからね。」「お食事をする テーブルもあるよ。」等とおうちごっこに発展した。

普段は戸外で活発に遊び、つくったりかいたりする遊びにはあまり関心を示さなかった S さんは、家づくりに興味をもち、自分の考えた家を作ろうと熱心に取り組んでいた。しかし、窓やドア作りが思うように行かず、離れたグループにいる幼児に声をかけ、やり方を教わり自分のイメージした家づくりに最後まで



写真 1 ちぎって遊ぶ



写真 2 転がって遊ぶ



写真 3 家づくり

で取り組んでいた。

【結果 1 の考察】

ダンボールを使った家づくりを通して、つくる楽しさや友達と協力したり一緒に遊んだりする楽しさを味わわせたいと考えた。幼児の主体的な活動になるように、中心になる素材に興味をもたせるような環境構成を工夫した。いろいろなダンボール遊びを楽しませたことや、様々な素材や用具を準備したことで、どの幼児も自分の考えた家づくりができたと考える。また、つくった家で遊びながら、友だちとイメージを伝え合うことで、さらに家づくりを工夫したり、家にある物をつくり出したり、つくった物で楽しく遊ぶなど、いろいろな表現活動を楽しめたと考える。

手だて 2 良き理解者やモデルになる

一方的に話すため、他の幼児とうまくコミュニケーションが図れずに、まだ教師とのかかわりを求めたがるKさんに対し、作りたいイメージや思いを受けとめ、どのように作ればいいのか具体化したり、他児とのかかわりをもたせるよう援助した。

【結果 2 他児とうまくかかわれないKさんの変容から】

ダンボールの家づくりに興味を示した始めたKさんは、「そうじゃないんだけど」と思うようにいかないことでわめきに近いような声をあげながら一人で奮闘している。

教師 「Kさん、どうしたの？」

Kさん 「あのね、ここが切れないんだよ。」

教師 「そうか、ここが切れないの。」

Kさん 「窓を作りたいの。」

教師 「どんなふうに作りたいの？ 先生に何をしてもらいたい？」

Kさん 「切ってもらいたい」

教師 「どんな風に切りたいのかな？ 切りたいところをペンで描いてみて。」

Kさんが書いた通りにダンボールカッターで途中まで切って見せた。カッターをKさんに渡すと残りをKさんが切って窓を仕上げた。その後「カーテンも付けたいけど」と困った顔をするので、教師は「どうしたらいいかな」と考えさせるようにした。近くの女の子たちが作っているカーテンを見て真似をしたかったらしく「あれが欲しい」とねだった。「分けてもらえるかもしれないよ、お願いしてみたら」とアドバイスすると、Kさんは「ねえ、それ分けて欲しいんだけど」とお願いすると、女の子たちは、「いいよ」と残りの布をくれたので、カーテンを付ける作業に取りかかることができた。しかし、一人では取り付けられなくて教師の助けを求めているようだった。そこで、同グループの幼児たちとかかわらせたいと考え「Rさんに手伝いをお願いしたら？」とアドバイスし、様子をうかがった。KさんはRさんをお願いし、カーテンを支えてもらい作業を進めて思い通りの窓をつくることができた。

【結果 2 の考察】

これまでかいたりつくったりする活動にあまり興味を示さなかったKさんが、ダンボール遊びには興味をもち始めた。しかし、自分の思い通りに作ることが出来ない。そのようなKさんに、Kさんのつくりたいと考えているイメージを引き出し、具体化していった。できなかったことを教師がやって見せたことで方法を知り、自分なりの家をつくることができた。また、Kさんとまわりにいる幼児とをかかわらせる援助をしたことで、友達と協力して家をつくる楽しさを味わったり、友だちに手伝ってもらって、作りあげた喜びを感じることができたと考える。

尚、授業参観した保護者より、検証保育への感想をいただいたので資料として掲載する。

グループ別に座った子どもたちから、はちきれんばかりの大きな声が我先にとびかっています。「お店やさん作るー」「お買い物するー」「ソファーも作る」「ベッドも作る」「キッチンも作るー」数えきれないほど、どんどん出てきます。「ダンボール箱を使ってお家を作ろう」という言葉から、こんなにたくさんのことが連想されて出てくるんだな。あー幼稚園生なのに！？ それとも幼稚園だからなのかなあ！などと思いつつ。

けいこ先生の合図で作業開始。

牛乳パックでお部屋の飾りつけ、時計も作ってかけてあります。窓や入り口のドアにも布のカーテンをちゃんとつけてあります。こんなに短い時間の中で、ここまでできたのかと正直に驚きました。ちゃんと、窓もソファーもキッチンもお風呂場も、なんとサンタさんの入る煙突まで！！「はあー？この子たちよーすごい！！」時計を見ると、作業を始めてから 50 分程度。たった 50 分で？いきなりどこかへワープしたみたい。

「箱が足りない。これちょうだい。」「ダメー」「少しだけなら貸してあげるー」こんな会話も飛び交います。ダンボールカッターを持ち、窓を作る。真剣な眼差しで、慎重に、ごしごし、でもけっこう早い。ビックリ！ 家では危ないからと持たせたことはありません。「へえーあんたこんなこともできたんだねえー」けいこ先生に見守られながら、窓を切り終えた「できたあー」というホッとしたような、満足した表情からの、あふれんばかりの笑い。抱きしめなくなりました。

今日は本当に子どもたちの素晴らしい笑顔をみせていただきました。

今回のダンボール箱を使っての家づくり、この子たちの抱いている将来の家や親や家庭に対しての夢であり、また、現在である。その二つが入り交じって、形に表現されたものではなかっただろうか、という思いでした。我が子が将来、本物の家建て、家庭を持つ日がきたときに、「幼稚園の頃さあーダンボールでねー・・・」と、笑い話ができる日を楽しみにしながら、その場を後にしました。

資料 保護者からの検証保育への感想

研究の成果と課題

1 成果

- (1) 多様な素材や用具、遊びの展開の仕方や絵本の活用、グループ作り等、環境構成を工夫することによって幼児の表現意欲を高めることができた。
- (2) 幼児の姿を受けとめ、幼児の良き理解者となったり、モデルとしての教師の役割を果たすことによって、自分なりの表現を楽しませることができ、その重要性を認識した。
- (3) 園の実態や幼児の発達に即した「表現を楽しむためのかいたりつくったりする遊びの年間計画」(表1)を作成することで、見通しをもって環境を構成できるようになる。

2 課題

- (1) 幼児の様々な表現を受けとめられるように教師自身の感性を豊かにする。
- (2) 作成した「表現することを楽しむためのかいたりつくったりする遊びの年間計画」をふまえて、一人一人の幼児の実態や園行事等に合わせ実践する。

(主な参考文献)

「幼稚園教育要領解説」	文部省	フレーベル館	1999
新幼児教育法シリーズ「表現」	黒川建一他	東京書籍	1990
保育内容・表現	黒川健一他	建帛社	1990
幼稚園教育要領を理解するための資料	高杉自子	小学館	1989
幼児の造形 ワークショップ	東山 明監修	明治図書	2004